

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		みつばち森アフタースクール		公表日		R8年 5月 1日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		11	1
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		12	0	出勤者の多数が有資格者であり、利用者に適切な支援を提供していけるように、配置等も決めて支援をおこなっています。		
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		10	2	利用者が使用する設備等については、問題なく過ごせるよう配慮しています。		
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		12	0	利用者の視覚の妨げにならないよう、すっきりした空間に配慮しています。また遊びたいおもちゃも、一目でわかるように配置しています。		
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		12	0	気持ちを整理するためや、宿題をするに当たり個別での指導が必要な利用者、体調不良により静養できる部屋を用意しています。	みんなが使用できる部屋ではあるが、どの利用者が必要としているのかを見極めていき、本当に必要としている利用者に振り分けていくことが課題です。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		12	0	パートさんの都合を確認し、なるべく支援に携わる職員が参加できる日を調整して、会議をおこなうようにしています。	会議を振り返り、より多くの意見を述べられるような手法を模索しています。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		12	0	貴重なご意見を受け止め、改善すべき点について、早急に対応していけるように努めています。	すぐに実行できること、時間をかけてしていくこと等、しっかり見極めていき、判断を見誤らないことが課題です。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		12	0	日々の会話のやり取りや、話しやすい環境を整え、意見を出し合える場を設けるようにしています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		0	12		今後、第三者による外部評価を取り入れていくことを検討していきます。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		8	4	研修に参加できなかった職員にも情報を共有し、議事録の閲覧・周知をしています。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		12	0	適切に作成し、公表しています。またHPに掲載していますが、忘れていた方もいらっしゃるため、年に一度周知しています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。		12	0	作成した個別支援計画書は、保護者様の携帯からいつでも閲覧できるように、アプリを取り入れていただいています。	ほとんど利用がない利用者や保護者様のニーズの聞き取りが難しく、何か良い方法を模索してるところです。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。		12	0	支援に携わる職員の意見も取り入れ、定期的なサービス担当者会議を開催しています。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。		12	0	各々職員が使用している携帯からでも、支援計画書が閲覧できるようにしています。また支援前にミーティングをおこない、当日の対応を決めています。	短時間だと、学校からの宿題が優先的になってしまっているので、計画に沿った支援の提供が難しいことが課題です。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		10	2	ケースバイケースで対応し、支援に携わる職員が、同じ認識のもとで対応していけるように努めています。	子どもの状況を日々確認していますが、専門家の意見も取り入れ、日々の療育につなげていこうと思えます。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。		12	0	自社内でも、個別支援計画書の見直しや支援の振り返り等をおこない、現状のニーズに合わせた支援をおこなえるようにしています。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。		12	0	年間計画に沿った活動や、事業所独自の活動も組み入れ、利用者の満足につながる取り組みをおこなっています。	なるべく行事費用がかからないこと、月に何度も費用がかかる行事は避けるなどして企画していますが、利用者を満足させていくには、費用がかかることも多く、そこがネックです。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。		12	0	マンネリ化しないように、季節の行事や利用者の要望なども取り入れ、活動を膨らませています。	季節ものの行事は固定月になってしまっていますが、同じ行事でもずることを毎年変えて、新鮮味を出せるよう改善しています。

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	12	0	利用者の特性に応じて個別、集団活動を組み合わせさせて計画し、支援をおこなっています。	短時間で利用だと、個別・集団活動を組み合わせた支援が難しく、計画に沿った支援を提供し続ける工夫する余地があります。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	12	0	支援開始前に、ミーティングをおこない、送迎の確認・利用者の支援等について確認をおこない、同じ認識を持って支援を提供できるようにしています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	10	2	気付きの目を大切にしているので、支援終了後に正職だけでミーティングをおこない、翌日にパート職員も含めて、気付きの共有をおこなっています。	よくないことに対して目がいきがちだが、良い面にも気付いていき、職員の視野も広がっていきたいです。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	12	0	支援しながらの記載だと、詳細を記録に残すことも難しい場面があるので、書く職員は要点をまとめて簡潔に記すことに気をつけていきます。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	12	0	支援計画書を作成する上で、サービス担当者会議をおこない、色んな職員から見た意見を参考にしています。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	12	0	個人・集団活動において、「4つの基本活動」を踏まえた支援の提供に努めています。	放課後の利用だと、限られた時間の中での支援となるため、利用者の状況に応じて「4つの基本活動」を取り入れた支援の提供が難しいことが課題です。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	12	0	すぐに大人が介入するのではなく、利用者の選択を大切にしていき、必要に応じて対応していくよう努めています。	介入すべきタイミングを見誤ってしまうと、自己決定に結びつかないので、利用者の特性や状況の判断が課題と言えます。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	12	0	適した者に参画してもらい、必要な情報は職員に共有しています。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	12	0		連携を取れている機関もありますが、まだ不十分な機関もあるので、利用者向けに切れ目のない支援を提供できるように、関係を構築させていくことが課題です。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	12	0	各学校のお便りや送迎の際に、先生と情報の共有をしています。また保護者様にも確認を取ったりして、漏れないよう努めています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	6		なかなかそれらの関係機関との連携が難しいので、関係を構築させていくことが課題です。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	6		引き継ぎ書を作成し、保護者様に同意を得た上で、利用者に関する情報を提供していきたいと考えています。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6	6		専門機関の助言や研修を受ける機会を設けるよう、関係の構築に努めていきます。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	10	2	月に一度、子ども食堂を通して、地域の子どもと関わる機会を設けています。また自所内でも地域に向けたイベントを年に一度企画しています。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	12	0	協議会に参加し、横とのつながりを広げていき、利用者の最善の利益のため、色々な話しを進めています。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	12	0	送迎の際にきちんと伝える内容を精査し、その日の出来事や注意したこと等、伝えていきます。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	10	2	保護者様が気軽に参加できるような企画（参加できる時間帯やイベント内容）を、要検討し実行しています。	他機関の案内にとどまるが、自所内での企画を検討していき、保護者様のニーズに対して対応していきたいです。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	12	0	説明後に不明な点がないか確認を取り、きちんと理解してもらえよう説明しています。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	12	0	利用者の思いを聞いたり、背景を汲み取るなどしています。また保護者様にも意向をきちんと確認し、作成にあたっています。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	10	2	保護者様に登録していただいているアプリから、支援計画書など公開し、いつでも確認できるようにしています。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	4	面談のお知らせを周知し、希望者のみの面談をおこなってききましたが、新年度から全保護者様と面談をおこなっていく予定です。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	10	2	職員も交え、保護者様同士で交流できる機会やごきょうだいでも参加できる機会を設けています。またより多くの方が参加できるよう、時間帯やイベントの内容も工夫しています。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	12	0	苦情があれば、すぐに事情を精査し、その日のうちに解決できるような対応を心掛けています。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	12	0	定期的にLINEやHPに活動の様子を掲載し、個人情報の保護にも配慮しています。連絡内容により、全体周知、個人への連絡などの対応もしています。	活動の様子では、イベント事の掲載が多いので、平日の活動の様子も写真を撮り、より多くの保護者様にもみづばちの様子を伝えていく努力をしています。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	12	0	契約時、写真の取り扱いについての確認をおこない、HPやLINE配信等、十分留意して取り扱うようにしています。また個人の情報を取り扱う時は、確認を取るようにしています。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	12	0		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	6		地域の方を対象としたイベントも企画していますが、参加につなげていくことが一番の課題と認識しています。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	12	0		それらのマニュアルを策定し、HPに掲載して周知していますが、知らないという声も聞かれるので、定期的に周知していきたいと思っています。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	12	0	緊急に備え、毎月避難訓練を実施しています。また色んなケースを想定しておこない、職員の動きも確認しています。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	12	0	契約時の面談での確認や、調査書を記入してもらい、生育歴等も確認できるようにしています。	年度ごとに情報に変わりがないか確認し、変更があれば、随時情報の更新に努めていきます。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	12	0	提供する前に、複数の職員でアレルギーの確認をおこない、誤食を誤食を防いでいます。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	12	0		
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	12	0	安心してご利用していただけるよう、契約時に災害時の避難場所や対応等をお伝えしています。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	12	0	小さな事案でも、ひやりとしたらヒヤリハットを書く習慣をつけ、職員間で共有して、再発防止につなげています。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	12	0	定期的に自所内での研修を開催したり、外部の研修に参加しています。知り得た情報は、全職員に共有しています。	虐待に対する職員の認識や定義など、全職員が足並みを揃え、同じ共通認識の中で支援をおこなっていくことが課題です。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	11	1		落ち着かせる手段として身体拘束をすることは無いですが、身体拘束の意味合いも広がってきているので、対応には十分気をつけて支援をおこなうように心掛けています。	